

特集

波の先にあるもの

サーフボードづくりから見える神栖の海

サーフスポットとして知られる神栖の海。波崎地域には、約50年前にサーフィンを始め、約40年にわたりサーフボードをつくり続けてきたレジェンドがいます。今回はサーフボードづくりを通して、神栖の海とサーフィンの奥深い世界に迫ります。



工房でサーフボードをつくる高梨さん

サーフィンが根付いたまち

神栖市の夏といえば、白い砂浜と青い海。夏の海水浴シーズンが過ぎても、まだまだ楽しめるマリンスポーツがサーフィンです。サーフスポットとして人気の波崎海岸や日川浜海岸は、遠浅で水がきれいなため、これからサーフィンにチャレンジしようとする人にもおすすめです。地元の皆さんにとっては、波乗りが熱中するサーファーや、サーフボードを積んで行き交う車なども、見慣れた風景となっているのではないでしょうか。

ところで、サーフィンが根付いているこのまちで、サーフボードが

くられていることをご存じですか？

今回は、約40年前に波崎地域で唯一のサーフショップ『LAP BEAT』を開業し、サーフボードをつくり続けてきた高梨一夫さんを訪ねました。波崎地域とサーフィンの関わりや、サーフボードづくりの話聞くうちに、興味がどんどんふくらんでいきました。

サーフスポットへの歩み

高梨さんがサーフィンと出会ったのは今から約50年前、19歳の時です。「友人がサーフィンをしているのを見て、サーフボードを借りて遊びで乗ってみたのが始まりです。最初か

ら面白くて、明日も来よう、また明日もと、3日連続で海に通いました。当時はまだ、波崎海岸でサーフィンをしている人は少なかったですね。

その後、昭和60年に新しい波崎漁港ができると、サーフポイントは少し北寄りに移りました。しばらくして『波崎南風サーフィンクラブ』ができて、大会が開催されるようになり、サーファーの数が増えていきました」

波崎海岸では、約40年前に波崎町長杯が開催されたことを皮切りに、神栖市長杯、日本サーフィン連盟茨城波崎支部主催の『茨城波崎SURFING GAMES』と受け継がれ、多いときは全国から約

2000人のアマチュア選手が集まり、サーフスポットとしての知名度が高まりました。

高梨さんも友人に誘われて大会に出場し始めます。やがて全日本選手権にも出場するようになり、優勝の常連として活躍。年齢を重ねてからも実力を発揮し、レジェンドと呼ばれるほどの名を広く知られる存在となっていました。



④



⑤

①波崎海岸 ②サーフショップ ③サーフボードで波に乗る高梨さん ④サーフィン体験のイベント ⑤工房に並ぶ道具



③



①



②



茨城波崎SURFING GAMES